

東アジア諸国における IT メディア環境の展開と親密圏・公共圏の変容

Evolution of Information Technologies and Transformation of the Intimate and Public Spheres in East Asia Countries

平田知久（京都大学大学院文学研究科 GCOE 研究員）

【メンバー】

朝田佳尚（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会特別研究員）

【ねらいと目的】

本研究の大きな目的は、日本・中国・韓国における IT メディアの展開が、各国の親密圏と公共圏をどのように変えてきたのかを、理論研究・フィールド調査を用いて、比較社会的に考察することにある。その際、特に（Ⅰ）IT メディアが生み出す公共圏・親密圏と、グローバリゼーション・ローカライゼーションとの相関関係を、地域性も踏まえた上で理論化すること、（Ⅱ）インフラとしての IT メディアが形成する親密圏・公共圏と IT メディア利用者が表象し意識化するそれらとの関係を質的調査として提示することを念頭に置いている。

上のような目的のもと、本研究では日・中・韓のインターネットカフェ（韓：PC 房、中：网吧）を研究対象とする。その理由は（i）上記三国はもちろん、世界的にも同様の場所が遍在すること、（ii）家庭という親密圏から切離された公共圏に属すると同時に、インターネットに接続されたプライベート・スペース（ブース）を中心とした親密圏が形成されるという点で、そこが親密圏と公共圏が重合する場となっていること、（iii）親密圏と公共圏の重合が現代的なセキュリティの問題を生み出していること、などである。これらの点について、各国のインターネットカフェの実態、及び利用者の属性調査と意識調査を行い、その結果をもとに、東アジア地域におけるグローバリゼーション・ローカライゼーションの展開と、親密圏・公共圏の変容との関係を理論化する。

【活動の記録】

2008 年 8 月 12 日 プレ研究企画会議（参加者：平田、朝田）

議題：①研究協力者の選定

②研究目的・研究計画の文書化

③日本著作・文献・記事データベースの作成案

8 月 27 日 第 1 回研究企画会議（参加者：平田、朝田）

議題：①研究目的・研究計画文書の確認

②日本語著作・文献・記事データベースの作成計画実施

③基礎文献講読の日時検討

9 月 29 日 第 2 回研究企画会議（参加者：平田、朝田、金）

議題：①韓国のインターネットカフェの調査に向けて

②基礎文献講読

（F・キットラー「ソフトウェアなど存在しない」『ドラキュラの遺言』所収）

- 10月18日 第3回研究企画会議（参加者：平田、朝田、穆、金）
議題：①中国のインターネットカフェの調査に向けて（研究協力者を交えた上での研究目的・指針・目標の確認、フィールド調査の手法に関する検討）
②日本のフィールド調査の概要確認
- 11月21日 日本本調査 大阪：2店舗2名へのインタビュー（平田、朝田）
- 11月29日～12月6日 韓国予備調査 ソウル：PC房散策（平田、朝田、穆、金）
中国本調査 北京：5店舗16名へのインタビュー
（平田、朝田、穆）
- 12月15日 メールにて中国本調査のデータの確認／共有、および改善点の検討、
理論研究との連関の検討
- 2009年1月11日 京都大学 GCOE 次世代グローバル Workshop にて、平田、朝田が報告
- 2月24日から28日 韓国本調査 ソウル：3店舗6名へのインタビュー
（平田、朝田、穆、金）

【成果の概要】

上記のねらいと趣旨のもと、大阪、北京、ソウルにおいて、インターネットカフェ（以下、IC と略記）の利用者にインタビュー調査を行った。結果、(1) IC での情報コンテンツの検索、チャット、オンラインゲームといった、インターネットに固有の利用方法はいずれの国にも見られたが、(2) IC を利用するということや、IC という場所そのものに対する意味づけは、3カ国で際立った相違があった。例えば、日本ではICのブースを「もう一つの自分の部屋」と捉え、自らの趣味である動画サイトに興じ、風俗情報を手に入れるという利用者がおり、中国では网吧を「皆に開かれた場」として認識しつつ、一日数時間の社長業をインターネットを通じてこなし、残りの時間を自らの趣味としてオンラインゲームにあてる元軍人の利用者がおり、韓国のPC房では小学生が塾の合間に仲間が集まり、皆でゲームに興じつつ人間関係を形成するといった事例があった。

さらに(3) ICやパソコン・インターネットの広がり、各国の親密圏や公共圏を変えたのではなく、そのあり方を促進させていることが確認できた。ただし促進されるのは、パソコン・インターネットカフェが導入・普及された際に、各々の国で支配的であった親密性・公共性についての理念であることも併せて指摘されるべきであり、日本でのみ問題となっている「セキュリティ」も、このような文脈から考察される必要がある。それゆえ、(4) ICは理論的には各国の社会関係や社会構造の現在を反映させ、純化させるような場として注目に値する。だが他方、ICは各国の社会関係や社会構造を反映させるがゆえに、「パソコンとインターネットが存在する」という点では同じ空間でも、それを分析する際には、「ICそのもの」といった理念的な分析軸を打ち立てる必要があることも明らかになった。